



ほんまもんの改革 ほんまもんの力

■ 長期的視野のもと 日本経済をよみがえらせよう!

日本のこれまでのやり方では、借金だけが増えて、景気対策が有効には働いていません。

米国オバマ大統領は「グリーンニューディール」のように将来、環境大国になるための長期的な戦略を打ち出しています。

日本の経済が将来どのような構造になるべきか、という長期的な視野のもとに政策を組み立てなくてはなりません。

将来、産業の生産性が上がるような分野に資金が投じられるべきです。

不景気でリストラされた人々が、新たな企業を起こせるような環境を政治が作っていくことが重要です。活力を取り戻すための起爆剤は何か?という発想が必要です。

1990年代、アメリカでは大企業が衰えましたが、ヤフーやマイクロソフトなどのITベンチャー企業が経済をリードしました。

それはクリントン政権がIT産業を伸ばすような下地をつくったからです。

日本も、今苦しい時期ですが、きちんとした政策を打てば、逆に「よみがえる」チャンスのある時期でもあるのです。

■ すべては教育から! 人をつくる教育が重要です。

今最も許せない問題のひとつは「経済格差が、子供たちの教育格差になってしまっている」ことです。

夢も、可能性もある子供たちが、学問をする道を閉ざされるような我慢や犠牲を強いられることは、絶対にあってはなりません。

■ 子育て支援少子化対策の 考え方を柔軟に!

子育て支援についても、少子化対策にしても、私はまず、親、特に女性の皆さんが、イキイキと生きていける社会の仕組みや環境、社会整備が急務だと考えます。

日本の女性は、子育ても介護も家事も何もかも一人に押し付けられている率が、他の国に比べてとても高いのです。

子供が、幸せをもって育っていけるかどうかには、お母さんの『幸せ』の状態が大きく関わると思っています。

子育て支援や少子化対策は、その1点からだけみるのではなく、母親が、一人の人間として、幸せを感じながら日々生活できているのか、偏ったひずみがかかりすぎているのか、そういう総合的な目でみた対策が必要だと思えます。

■ そして、国民が幸せを 実感できる国に!

日本は経済大国です。それなのにNGOや大学が調査すると、日本の国民の幸福度がかなり低くランクされています。また日本は「孤独を感じる」と答えた15歳の割合が他国に比べてダントツに高いのです。

幸福度が低い国。そして子供が孤独だ、と言う国。その点を徹底的に細やかに改善したいです。

もちろんお金をばら撒くだけの予算をたてる気は毛頭ありません。

皆さんご存知のように人はお金では幸せになれないのです。

ただ、政治は、大きな視点で眺めれば見えてくるものがたくさんあります。

国民が幸せだと感じられる、国づくり、地域づくりを複眼的な視野をもってやっていきたいと思えます。

KISHIMOTO SHUHEI



The Democratic Party of Japan
民主党

きしもと
岸本

周平
しゅうへい